

**JICA 横浜 海外移住資料館**

# 館報

2018 年度



## はじめに

JICA 海外移住資料館が 2002 年 10 月に開館し、16 年が経過しました。横浜みなとみらい 21 地区の発展とともに当館へも多くの方々にご来館いただいています。2018 年度の訪問者数は 44,296 人、開館以来の累計訪問者は 56 万人を超えました。これもひとえに資料の収集・展示・保管や調査研究活動、講座や各種の催しにご協力くださる関係者の方々、そして当館の活動を暖かく支えてくださる地域の方々のお蔭であり、厚く御礼申し上げます。

2018 年度は移住先国の周年行事が複数あり、3 件の企画展は全て移住先国を特集したものとなりました。在京ブラジル総領事館と共催した「日伯 110 年の絆 - 在日ブラジル人 - 在日 30 年をむかえた日系人の歴史と日常」、ハワイ日本人移住 150 周年記念企画展示「元年者に始まるハワイ移民と邦字紙が果たした役割」、そして日本マチュピチュ協会・野内与吉資料館と共催したペルー日本人移民 120 周年記念企画展示「マチュピチュ村を拓いた男 野内与吉とペルー日本人移民の歴史」の 3 件です。いずれも各国への日本人移民の重要な節目となる年を記念したもので、それぞれの国・地域の関係者にも多数ご来場いただきました。

「日伯 110 年の絆 - 在日ブラジル人 - 在日 30 年をむかえた日系人の歴史と日常」では写真家ジュニオール・マエダ氏の再現写真から、1990 年代の在日日系ブラジル人の困難と母国への郷愁を感じることができました。「元年者に始まるハワイ移民と邦字紙が果たした役割」では 8 世まで誕生した元年者の移住者の家族系図を写しだした企画展示室で、長く深みのある歴史が実感できました。「マチュピチュ村を拓いた男 野内与吉とペルー日本人移民の歴史」では、公開講座「ペルー日本人移民の歴史とマチュピチュ村を創った野内与吉の生涯」で野内与吉の苦労を自らがデカセギとして来日した時の苦労に重ね合わせるように語った実孫・野内セサル良郎氏の話に、前例を見ない 110 名ものご来場者も、深く共感いただけたものと思います。

一方で、当年度はラップやサンバといった従来の資料館イベントとは一味違う企画も行われ、盛況を博しました。ブラジルと移民を尊敬している音楽家が、ラップのリズムに乗せて歌う日本人ブラジル移民のストーリーに合わせ口ずさむと、自然と移民の歴史を覚えてしまうようでした。

横浜の市民団体に実施いただいたイベントでは、JICA 横浜の体育館で華やかな衣装のダンサー達によるサンバが踊られ、カポエイラの演武もあり、250名もの熱気あふれる来場者で賑わいました。

これらはブラジル移民110周年を祝したのですが、一般の方々からこのような企画を持ち込んでいただき、共に祝えたことを、とても嬉しく思いました。

その他、近隣の企業・団体様と共同実施した恒例の新港地区ハロウィンスタンプラリー、資料館入口のクリスマスツリーを飾るプチ・クリスマス企画などは、老若男女、家族連れの方々にも参加しやすい内容となりました。今後共、ぜひ様々な年齢層の方々に、親しみを持って当館にお越しただければと思います。

2019年4月の入管法改正を受け、日本にも多くの海外からの外国人就労者が訪れる時代になりました。かつては移民の送り出し国であった我が国の歴史を正しく知っていただくために、当館の果たすべき役割が益々大きくなっていると言えます。引き続き当館の活動へご支援・ご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

JICA 海外移住資料館 館長 熊谷 晃子

※2018年11月15日、当館館長が朝熊 由美子から熊谷 晃子に交代しました。

# 目 次

---

1.	展示イベント等	1
2.	情報システム	12
3.	資料等情報整備	14
4.	教育普及活動	16
5.	広報活動	25
6.	運営委員会及び学術委員会	27
7.	アンケート調査	30
8.	各種実績等	31



# 1. 展示イベント等

## 企画展示1 日伯110年の絆-在日ブラジル人 -在日30年をむかえた日系人の歴史と日常-

開催期間：6月16日（土）～9月2日（日）

開催期間中入館者数：12,573名

概要：1990年代の在日日系ブラジル人の、異国における困難や母国ブラジルへの郷愁を抱える日常の再現、および日本で活躍する日系ブラジル人を、日本在住の日系ブラジル人写真家ジュニオール・マエダ氏の写真で紹介。あわせて、入管法改正当時のパスポートや新聞雑誌なども展示し、ブラジル移住110年の歴史とともに在日日系ブラジル人の30年を振り返った。



## 付帯イベント：オープニングセレモニー・イベント

実施日時：6月16日（土） 16:00～17:15

会場：1階エントランスロビー

概要：企画展示オープンを記念してオープニングセレモニー・イベントを開催した。オープニングセレモニーではブラジル総領事館主催のもと、カクテルパーティーを実施した。

式次第：  
・主催者挨拶 JICA 横浜 海外移住資料館館長 朝熊由美子  
・共催者挨拶 在東京ブラジル総領事館ジョアン・デ・メンドンサ・リマ・ネト総領事  
・リオ・ブランコ勲章授与 受章者：NPO 法人 ABC ジャパン理事長 ミチエ・アフソ  
※乾杯後、資料館企画展示見学（自由見学）ジュニオール・マエダ氏による展示案内  
※エヴェルトン・トバセ氏著書『1991』無料配布とサイン会を2階資料館入口で開催



## 企画展示2 ハワイ日本人移住 150 周年記念企画展示 -元年者に始まるハワイ移民と邦字紙が果たした役割-

開催期間：10月6日（土）～12月24日（月・祝）

開催期間中入館者数：11,207名

概要：150年前の1868年、横浜から出港した約150人の日本人がハワイへ到着した。これが日本からハワイへの集団移住の始まりとされる。この後、明治維新により江戸時代は終わり、彼らはのちに「元年者」と呼ばれた。本展示では、元年者に始まったハワイ初期移民の歴史とハワイで発行された日本語新聞が日系社会で果たした役割をパネルで解説し、外務省外交史料館が所蔵する条約書や元年者に関する貴重な史料を展示した。



## 企画展示3 ペルー日本人移民 120 周年記念企画展示 「マチュピチュ村を拓いた男 野内与吉とペルー日本人移民の歴史」

開催期間：3月2日（土）～5月26日（日）

開催期間中入館者数：3,253名（2019年3月末日現在）

概要：現在では年間100万人もの観光客が訪れるペルーのマチュピチュ遺跡。その玄関口であるマチュピチュ村を創り、発展に尽くしたのが、一人の日本人移民であったことは、あまり知られていない。ペルー日本人移民120周年にあたる本年、マチュピチュ村のために貢献した野内与吉に焦点を当てるとともに、日本人移民たちがペルーにおける日系社会を形成してきた足跡や、ペルー考古学研究の発展に寄与した日本人、二、三世が活躍する現在のペルー日系社会などを紹介。与吉の故郷である福島県大玉村に創設された野内与吉資料館より、与吉の遺品である手作りの工具等を借用して展示した。また、外務省外交史料館所蔵の条約書や移民契約書など、貴重な外交史料をあわせて展示した。





## 付帯イベント：オープニングセレモニー

開催日時：3月1日（金）13:30～14:30

概要：企画展示オープンに先立ち前日に非公開のオープニングセレモニーを開催した。

- 式次第：
- ・主催者挨拶 JICA 横浜 海外移住資料館館長 熊谷晃子
  - ・共催者挨拶 日本マチュピチュ協会/一般社団法人野内与吉資料館  
野内セサル良郎 会長・代表理事
  - ・来賓挨拶 在日ペルー共和国大使館 ハロルド・フォルサイト特命全権大使
  - ・企画展示見学 野内会長による展示案内
- ※企画展示見学後、2F ギャラリー奥ワークショップスペースにて、乾杯を行った。
- ・乾杯挨拶 ペルー国会内アンデス会議議員  
ホルヘ・ルイス・ロメロ・カストロ副議長



## 巡回展示 1

### 巡回展示「南国土佐をあとにして ー海を渡った「いごっそう」ー」

概要：当館で2018年2月10日から5月27日に開催した企画展示「南国土佐をあとにして ー海を渡った「いごっそう」ー」の巡回展示が、高知県の主催により開催された。

会場①：高知城歴史博物館（高知県高知市）

開催期間：6月17日（日）～19日（火）

会場②：高知県立大学池キャンパス（高知県高知市）

開催期間：6月25日（月）～7月6日（金）

会場③：高知県立大学永国寺キャンパス（高知県高知市）

開催期間：7月9日（月）～20日（金）

会場④：四万十町庁舎渡り廊下（高知県高岡郡）

開催期間：8月17日（金）～9月5日（水）

会場⑤：土佐市「南風」（高知県土佐市）

開催期間：9月18日（火）～28日（金）

会場⑥：オーテピア高知図書館（高知県高知市）

開催期間：11月17日（土）～12月20日（木）

会場⑦：佐川町「桜座」（高知県高岡郡）

開催期間：1月16日（水）～23日（水）

## イベント1 「移住の日イベント」

開催日：2018年6月17日（日） 11:00-15:00

参加者：263名

概要：海外移住の日を記念して、コーヒーの試飲配布を行った。天気や準備の難しさ等を勘案し、ドリップコーヒーでなく、冷やした缶コーヒー（ブラジル産高級豆使用）とお茶菓子（ブラジル製）の配布とした。

## イベント2 「大江戸ハワイフェスティバル2018」

開催日：2018年7月14日（土）～7月16日（月・祝）

概要：日本橋で実施。当館所蔵のハワイ関連のパネル18枚およびハワイの大地図、DVDを貸し出した。会場には、資料館を紹介するDVD上映に加え、各種チラシやパンフレットを配架し、資料館の宣伝に活用した。

## イベント3 「ミュージアムミッション2018」

開催日：2018年7月21日（土）～8月31日（金）

概要：神奈川県立歴史博物館の主導の下、10か所の博物館共催で「ミュージアムミッション2018」のイベント「スタンプラリー（シールラリー）」を実施。ミッション制覇者へは応募でプレゼントを進呈した。

## イベント4 「音楽ワークショップ」

開催日：2018年9月2日（日） 14:00-15:00

参加者：50名

概要：ブラジル好きのアマチュアのラッパーREI CAPOEIRAP氏によるイベント。ブラジル日本移民110周年を記念し、音楽を通して、ブラジル移民の歴史、日系社会への理解を深めてもらうもの。カポエイラ、紙芝居も用いて、移住の歴史やブラジルの文化を紹介した。



## イベント5 「クラフトワークショップ『移民船をつくろう!』」

開催日：2018年9月29日（土） 13:00-16:00

参加者：8名

概要：日本人移住先のうち、5ヶ国（アメリカ、カナダ、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ）のいずれかの国旗が描かれた耐水性折り紙で船を折り、移民船としてプールに浮かべ各国のゴールポイントを目指す体験を提供した。



## イベント6 「よこはま国際フェスタ 2018」

開催日：2018年10月6日（土）～10月8日（月・祝） 10:30～16:00

参加者：2,889名（資料館ブース）

概要：グランモール公園にて、60以上の国際系団体が展示・物販・飲食等のブースを構える中、資料館ブースでは移民船の中で行われていた競技の紹介としてビンつりゲーム、移民や日系社会についての概説パネルの展示、広報誌の配布を行った。親子で参加できるゲームとしてビンつりが盛況であった。



## イベント7 「ハロウィンスタンプラリー」

開催日：2018年10月27日（土） 11:00-16:00

参加者：1,177名

概要：新港地区賑わいづくり委員会が主催する近隣施設との共同企画イベント「第11回宝島HALLOWEEN」に参加。各施設がスタンプラリー・お菓子配布のポイントとなり、スタンプを集めた人が参加できる抽選会（会場：ワールドポーターズ）やシルバニアファミリーのショー・パレード（会場：運河パーク）が行われた。ポイントの1つを担った資料館では資料館内の装飾（23日～28日）とスタッフの仮装、仮装グッズの貸し出し、特別撮影スポットの設置を行った。開催中の企画展示にちなんだハイクイズカードとパンフレット「パスポート」を配布しながら呼び込みも行った。



## イベント8 「Viva 110! 横浜で祝おうブラジル日本移民110周年」

開催日：2018年11月11日（日） 14:00-17:00

参加者：250名

概要：JICA 横浜協力のイベント。体育館にて記念ステージショー（サンバ、カポエイラ、横浜市消防音楽隊の演奏など）を実施。イベント会場には資料館所有のブラジル日本人移住の説明パネル（計10枚）も展示した。同イベントの関連企画である絵画展「海を渡った移民船たち」と写真展「遠くて近い国ブラジル」は11月3日（土・祝）～18日（日）まで1Fロビーにて開催。



## イベント9 「プチ・クリスマス企画」

開催日：2018年12月4日（火）～12月24日（月・祝）

参加者：276名（サンタ写真スポット利用者除く）

概要：資料館入り口にて、3種のクリスマスイベントを開催。「みんなでつくろう 移住国ツリー」は、日本人の移住先の国旗カードの中から、移住したい国を選んでメッセージを記入し、クリスマスツリーに飾るもの。「サンタに変身 記念撮影コーナー」は、野菜山車横にサンタの衣装を用意し、記念撮影スポットとした。「海外のお菓子をプレゼント」は、資料館をテーマにSNSに投稿した訪問者、もしくはアンケート回答者へ移住国のお菓子をプレゼントした。



## イベント10 「ブラジル移住111周年記念イベント『ブラジルと日本の未来を奏でる美味しい音楽会 -Projeto Som Na Bacana-』」

開催日：2019年2月24日（日） 14:00-15:30

参加者：60名

概要：2018年9月2日に開催した音楽ワークショップ講師 REI CAPOEIRAP 氏（ラッパー）と、JICA職員が所属する中南米愛好家のバンド The Nwankwo 9 がそれぞれの持ち歌を披露するとともに、コラボ演奏を行った。また ACCC. SHONAN によるカポエイラの実演もあった。



## イベント11 「ドキュメンタリー映画上映会『And Then They Came for Us』」

開催日：2019年3月10日（日） 13:00-14:30 / 3月16日（土） 13:00-14:00

参加者：116名（2日合計）

概要：第二次世界大戦中に強制収容された日系アメリカ人の姿を通して、昨今の移民排斥の風潮に一石を投じる映画の上映会を開催した。10日は移民研究会との共催で、熊谷館長の挨拶および出演者の一人 Satsuki Ina 氏の解説が行われた。



### 公開講座 1

高知県人はなぜ海を渡り新天地を求めたのか？  
—高知県移民群像—

開催日：5月12日（土）14:00-15:30

講師：中村 茂生（高知大学 非常勤講師）

受講者数：36名

概要：明治以降、多くの高知県人が移民として海を渡った。彼らは世界中の様々な地域を目指した。2016年、そうした人物をとりあげて、約1年間にわたり、高知県下の博物館、美術館が連携して企画展を開催した。奥村多喜衛、水野龍、崎山比佐衛など各館で取り上げられた人物を紹介し、高知県人と移民の関係についてお話を伺った。



### 公開講座 2

在日30年の体験から見たブラジルと日本

開催日：7月8日（日）14:00-15:30

講師：斎藤 俊男（株式会社ティー・エス会長）

受講者数：46名

概要：1990年に来日した斎藤俊男氏は、さまざまな仕事を経験した後、95年に人材派遣業などを手がける事業法人を設立。その後、農業ビジネスにも参入し、日本国内最大の深谷ネギ生産者として成功を収めた。日系子弟の教育にも力を入れ、在日ブラジル人学校「ティー・エス学園」を創立したほか、在日ブラジル人学校協議会の理事長として、在日ブラジル人子弟の教育環境の向上に貢献している。30年にわたる日本での活動をとおして見た、在日ブラジル人の現状や抱えている課題、在日ブラジル人コミュニティの存在意義などについてお話を伺った。



### 公開講座 3

ハワイ日本人移住150周年記念企画展示関連イベント  
バックヤードから語る移民史～外交史料こぼれ話～

開催日：11月3日（土・祝）14:00-15:30

講師：柳下 宙子（元外務省外交史料館課長補佐）

受講者数：70名

概要：外務省外交史料館で30年以上にわたり外交史料の収集、整理に携わった経験や、資料調査に関するエピソードなどをお話しいただいた。また、外交史料館より借用し展示している条約書やパスポートなどの見どころについて概説して頂いた後、企画展示室にて展示解説を行った。



#### 公開講座 4

NHK ドキュメンタリー制作者が見た“日系アメリカ人  
栄光と苦難の150年”

(よこはま国際フォーラム 2019 内プログラム)

開催日：2月2日(土) 11:00-12:50

講師：小山 靖史

(NHK エンタープライズ・プロデューサー)

受講者数：50名

概要：NHKのスペシャル番組で、数多くの日系アメリカ人関連の企画・制作をしてきた小山 靖史氏が、2001年に起きた9.11アメリカ同時多発テロ当時に運輸長官だったノーマン・ミネタ氏など、複数の日系アメリカ人に焦点を当てて、番組映像を見ながら彼らが経験した栄光と苦難について語った。



#### 公開講座 5

ペルー日本人移民の歴史とマチュピチュ村を創った  
野内与吉の生涯

開催日：3月23日(土) 14:00-15:30

講師：野内 セサル 良郎

(日本マチュピチュ協会会長/一般社団法人  
野内与吉資料館代表理事)

受講者数：110名

概要：1917年、22歳で福島県からペルーへ移住した野内与吉は、マチュピチュまでの鉄道建設に携わったのをきっかけに現地に定住。マチュピチュ初の大型木造建築となる「ホテル・ノウチ」を起点に地域発展に尽くした。郵便局や行政機関にホテルを提供し、水力発電所を建設するなど地域住民の信頼を得て、1939年にマチュピチュ集落の最高責任者である行政官、1948年にはマチュピチュ村の村長を務めた。その功績を与吉の孫にあたるセサル良郎氏に、ペルー日本人移民の歴史とともに語って頂いた。また公開講座終了後に、野内会長による企画展示解説を行った。



## 2. 情報システム

### 1) 情報検索システム

#### (1) 情報検索システム運用

図書資料室（海外移住）で実施される各種レファレンスサービスと連携して、当資料館の収蔵資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。2018年度末時点登録数：29,858件（うち図書類：21,637件、標本類ほか：8,221件）。

URL: <http://search.jomm.jp/>

#### (2) 登録データの整備

2018年度は既に登録されている書誌情報の修正、不足情報の追加等を行った。また、図書の複本処理を行い、データを統合させた。登録情報の照合・確認・修正件数は1,181件。

### 2) 海外移住資料館 web ページコンテンツ

#### (1) 移住資料所蔵機関情報

国内及び海外における博物館、図書館、研究機関その他団体等のうち、「日本人の海外移住の歴史」に関する資料を所蔵・公開している機関について、情報提供するコンテンツを製作。移住資料所蔵機関の所在地、所蔵資料の概要、過去の展示実績等の情報を集約し、多くの皆様に提供することを目的としている。引き続き、関係諸機関の皆様より情報提供等の協力をいただき、順次追加していく予定。

URL: <https://www.jica.go.jp/jomm/shozokikan/index.html>



#### (2) JICA 横浜 海外移住資料館 研究紀要

当館で行われた学術研究の成果を広く社会に発信することを目的として、2006年より刊行している『研究紀要』について、PDF版を製作し、当館 Web ページにて公開した。

URL: <https://www.jica.go.jp/jomm/kiyo/index.html>



#### (3) 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイトの維持・管理

当資料館では、日本国内および世界各国の日本人の海外移住をテーマにした博物館・資料館等と連携し、当館がそれらのハブ機能としての役割を持つプロジェクトをすすめ、また、このプロジェクトでは、当館の情報システムを活用し、写真・資料のデジタル・アーカイブおよびインターネット上の資料展示や横断的な資料検索等を実現することで相互の移住資料が有効活用されるネットワークをめざしている。

2018年度については、広島市デジタル移民博物館内のハワイ英語版コンテンツについて更新した。現在公開中のプロジェクトサイトは以下のとおり。

- ・ 広島市デジタル移民博物館
- ・ オキナワポリビア歴史資料館
- ・ アルゼンチン日本人移民史
- ・ ペルー日系人協会 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイト
- ・ 中南米移住地記録写真集 1964



### 3. 資料等情報整備

#### 1) 資料の受入・収集

海外移住に関連する図書、標本等各種資料を寄贈、購入、取得等の方法で収集した。資料受入は646件。登録総件数は43,462件。

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
取得	41	45	73	74	233
購入	33	1	9	1	44
寄贈	46	54	134	82	316
移管	0	0	0	0	0
既存資料	1	1	0	50	52
寄託	0	0	0	1	1
受入合計	121	101	216	208	646

#### 2) 資料の整理

##### (1) 海外移住事業に関する所蔵資料 移住申込書関連資料

移住申込書の物理的整理作業が2011年11月に終了したことを受け、2012年度より移住申込書のデータベース構築作業が開始された。データ入力、確認作業を実施し、データ（文字情報、画像）の不備、修正等があった場合には、その都度実物資料と照合し、適宜修正等を行った。

2018年度は、海外移住センター旧蔵資料のうち業務簿冊に含まれる移住申込書について、整理作業を実施した。なお、本作業は慶應義塾大学文学部 柳田研究室の協力を得て実施している。

作業件数：①データシート記入作業…19件

②葉数確認作業…703件

③ファイル番号付与作業 ファイル番号付与…1085件

「移住申込書作業記録」入力…1067件

④データベース入力作業…414件

このほか、必要に応じて、確認・修正、作業マニュアル更新などの作業を行った。

##### (2) 海外移住事業に関する所蔵資料 海外移住センター旧蔵アルバム

海外移住センター旧蔵資料のうち仮入力済みのアルバム類（JICA及び前身機関が作成したもの）について、整理作業を実施した。

作業件数：①全体確認作業：544件

②データ入力等作業：579件

③写真のデジタルデータ化有無等入力作業：579件（うちデジタル化済133件）

④未整理アルバムの整理・データ入力作業：31件

##### (3) 伊藤一男関連資料

伊藤一男氏（元読売新聞記者、シカゴ新報東京支局長、北米報知東京支社長。『北米百年桜』の著者。）のご遺族より寄贈を受けた資料について、概要入力作業を実施した。具体的には、資料群ごとに写真撮影、資料番号及び分類記号を付与し、資料の内容を入力した。

寄贈資料は、主に北米日本人移住者に関するものであり、図書、新聞、写真、書簡等、多岐にわたる。

作業件数：498件（資料群の数）／38箱（コンテナ数）

(4) 図書資料等

ラテンアメリカ協会より寄贈の図書資料等について、複本確認、及び、本登録作業を実施。あわせて、本登録済み図書資料を対象とした書誌情報の追加入力、複本確認作業を行った。

作業件数：1181件

ラテンアメリカ協会寄贈資料の作業件数：851件

上記作業に伴う登録済図書資料のデータ修正作業等件数：330件

(5) 海外邦字新聞の整理

当資料館で原紙を受入れている海外邦字新聞（26紙）について、目録作成のデータ入力作業を実施した。

(6) その他

収蔵品のうち未整理となっている資料について、柳田学術委員の指導・助言のもと、状況確認、整理作業の優先順位及び初期作業の方向性を策定、資料の仮区分を行い、仮整理作業を実施した。

作業件数：260件（資料群の件数）／13箱（コンテナ数）

### 3) 収蔵環境の整備

(1) 特別清掃

常設展示場、企画展示室、一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、図書資料室及び書庫等について、専門業者へ依頼をして、特別清掃作業を実施した。

(2) 収蔵庫内の環境調査

収蔵品を保管している一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、図書資料室及び書庫の環境について、専門業者へ調査を依頼。バグトラップの設置、空中浮遊菌・塵埃吸引作業を行って、虫や菌・塵埃等の侵入、発生について、調査を行った。

## 4. 教育普及活動

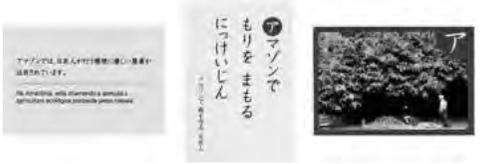
### 1) 教育プログラムの概要

当館では、日系移民に関する資料の収集、保存、展示、研究活動のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらう役割を担っている。また、特に若い世代の人々に、多文化共生社会を生きる一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりに移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、教育普及活動に積極的に取り組んでいる。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており「多文化共生」が教育の分野においても大きな課題になっている。そこで、日本人の海外移住の歴史と日系人の生活について展示を行っている当資料館では、そのような課題に応え、教育関係者を対象として、指導者向けの解説書である「学習活動の手引き」作成をはじめとし、教材開発やボランティアによる展示ガイド等、多様な教育プログラムを実施している。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されている。このような 21 世紀の世界の中で、グローバルな価値の実現をめざして行動できる地球市民としての資質に加え、多文化社会の中で異なる文化を受容、尊重し、共生へ向けて行動できる市民としての資質という両方の育成が求められている。当資料館の教育プログラムを「共生にむけて」社会参加ができる子どもたちの育成のために活用いただければと考えている。

表：海外移住資料館の学習教材

<p><b>【学習活動の手引き】無料配布</b></p> <p>この手引きには、移民について学ぶことの意義が記され、その意義に沿った、海外移住資料館の展示及び各種教材を活用したいくつかの授業構想が含まれている。学校の先生方はもとより、NGO/NPO 関係の方々への授業づくりやワークショップの際の参考として利用できる。</p>	
<p><b>【移民カルタ】貸出可</b></p> <p>日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知って欲しい移民に関するさまざまな事柄を、遊びを通して楽しみながら学ぶことができる。</p>	
<p><b>【日本-ブラジル移民カルタ】貸出可</b></p> <p>このカルタは、単に日系ブラジル人の歴史や文化を学ぶだけではなく、日系ブラジル人の継承日本語教育の学習教材としても活用できるよう、日本語とポルトガル語の解説が併記されるなど、様々な工夫が凝らされている。（制作：移民カルタ研究会）</p>	
<p><b>【移民スゴロク】貸出可</b></p> <p>このスゴロクは、日本人のブラジル移住および移住一般に関して学ぶことを目的としている。クイズとしても遊べるようになっている。小学生高学年以上対象。</p>	

### 【紙芝居】貸出可

絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。全4種類。

- (上段左) 海を渡った日本人
- (上段右) カリナのブラジルとニッポン
- (下段左) ハワイに渡った日系移民
- (下段右) 弁当からミックスプレートへ



### 【いみんトランク】貸出可

いみんトランクは、国際的な人の移動から多文化共生を学ぶことのできる教材として、また、日本と世界をつなげていく教材として、移民に関する授業や事前学習のサポートを目的に貸し出ししている。移住者の歴史や経験、貢献などにかかわるハンズオン教材として、以下の教材を用意している。

- ・野菜山車 (画像・トピックシート有)
- ・ハワイ移民労働着
- ・弁当缶
- ・笠戸丸画像
- ・パールハーバー当日の新聞
- ・太平洋戦争終戦を伝える新聞
- ・さとうきび
- ・ミックスプレート (トピックシート有)
- ・移住幹旋ポスター
- ・ジュート
- ・コショウ
- ・綿花
- ・コーヒー
- ・コーヒー用麻袋
- ・日系人が栽培している野菜
- ・サクラ醤油
- ・ハワイ盆踊り手ぬぐい
- ・ロコモコ (トピックシート有)
- ・スパムセット
- ・Tシャツ (日系コミュニティのイベント等で使用されたもの)
- ・ブラジルの和菓子 (やぶれまんじゅう、あんぱん、詰め合わせ、緑茶もち、金澤製菓画像。トピックシート有)
- ・ブラジル南米神宮のお守り (南米神宮画像、トピックシート有)
- ・ハワイのビッグファミリー (画像)



【ハワイ移民労働着：ハナハナウェア】



【ミックスプレート、弁当缶、さとうきび】



【パールハーバー当日の新聞】

- ・ブラジルの米
- ・ブラジルの干柿

これらの教材を実際見て、手に取ることで、日本人移民の歴史と経験について何かを感じ取り、学習効果が高まることを期待している。

なお、トピックシートに関してはホームページ上からダウンロード出来るよう対応されている。



【ブラジルの和菓子】

### 【定点解説キット】

日本からの移住者が運んだトランクを再現したもの、当時の移住先国での暮らしを紹介するものなど、10のキットがある。直接体験を通して展示をより実感して理解することが可能となる。本キットは、常設展示案内時に使用している。

- ・サトウキビ畑の生活・仕事（麦わら帽子、手ぬぐい地の帽子、軍手、写真パネル等）
- ・ミックスプレート（写真パネル）
- ・スーツケース（写真カード入小箱、トランク等）
- ・移住物語（写真アルバム、複製パスポート）
- ・花と製品あてゲーム
- ・農作業具（写真パネル）
- ・日系商店（萬屋の品揃えアルバム、エプロン等）
- ・日系人の食卓（写真アルバム）
- ・イグアス（空撮写真、アルバム等）
- ・宝さがし（中高生向写真カード、ゾーンマップ）



### 【映像教材】貸出可

日本人の海外移住の歴史に関する映像教材。以下 6 種類は貸出も行っている。

- ①DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は、今！」（制作：2008年、53分）
- ②DVD「アマゾンに挑んだ草創の日本人」（制作：2009年、85分）
- ③DVD「JICA 横浜 海外移住資料館」（制作：2009年、11分）
- ④DVD「夢と希望を運んだ船 ～移住船での暮らし～」（制作：2009年、5分）
- ⑤DVD「100年の鼓動 ―ハワイに渡った福島太鼓―」（制作：2011年、57分）
- ⑥DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」※（制作：2013年、40分）

※本映像教材は『二つの祖国で・日系陸軍情報部』などで知られるすぎきじゅんいち監督より寄贈を受けた。

### 【パスポート】

当館概要、海外移住の歴史、ワークシート、来館記念スタンプ用紙などを一つの冊子にまとめ、作成した。学生はもとより一般来館者へも配布し、展示のねらいに即した見学を支援するとともに、見学後、見学した内容を簡単に振り返る事が出来るよう工夫されている。

## 2)教育プログラムの実施

教育機関の団体入館児童・生徒、学生を主な対象として、ガイダンス（概要説明）、パスポートや学習教材を使用したプログラム、質問事項への対応等を実施した。本年度の教育プログラム実施件数は236件、総受講者数は8,712名となった。四半期毎の実施教育機関は以下のとおり。



### 【教育プログラム実績】

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
件数	64	52	76	44	236
総受講者数	3,096	1,357	2,743	1,516	8,712

※件数は、実際にプログラムを実施した数。同じ教育機関が複数回受講したケースも有り。

### 【教育プログラム受講教育機関】(1)第1四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	深谷市立幡羅小学校、横浜市立深谷小学校	2	212
中学校	白石市立白石中学校、東松島市立矢本第二中学校、栗東市立栗東西中学校、桜井市立桜井東中学校、横須賀市立北下浦中学校、横須賀市立浦賀中学校、鶴岡市立鶴岡第三中学校、平塚市立浜岳中学校、平塚市立金目中学校、平塚市立江陽中学校、日進市立日進東中学校、相模原市立新町中学校、桑名市立明正中学校、札幌市立清田中学校、平塚市中原中学校、四日市市立西笹川中学校、横浜市立潮田中学校、日系次世代育成研修、清須市立新川中学校、横浜市立本牧中学校	20	934
高等学校	鶴沼高等学校、神奈川県立相原高等学校、東京都立美原高等学校、大東文化大学第一高等学校、神奈川県立小田原城北工業高等学校、市原中央高等学校、神奈川県立磯子工業高等学校定時制	7	1,006
大学・専門学校	神奈川大学外国語学部国際文化交流学科、フェリス学院大学、松陰大学、恵泉女学園大学、日本大学国際関係学部、多摩大学グローバルスタディーズ学部、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター、和洋女子大学国際学類	8	193

その他	Heritage Tour 2018、日系社会ボランティア派遣前訓練（2018-1ブラジル）、神奈川県警察学校（10回）、（公財）海外日系人協会（3回）、豊田合成株式会社労働組合、あおぞら公園体操の会、企寿会、横浜市役所環境創造局下水道事業マネジメント課、神奈川県私立中高等学校協会、四葉会、船橋市大穴民生・児童委員会、清水ヶ丘第二町内会婦人部、横浜市財政局、国際フレンドシップ協会、曹洞宗総合研究センター、みなとみらいかもめSCHOOL	27	751
合計		64	3,096

(2) 第2 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横須賀YMCA、横浜山手中華学校アフタースクール、横浜市立宮谷小学校	3	203
中学校	芝浦工業大学附属中学高等学校、川崎市立川崎高等学校附属中学校、横浜市立南高等学校附属中学校、神奈川県立相模原中等教育学校、神奈川県大学附属中・高等学校、文教大学附属中学校・附属高等学校、町田市立町田第三中学校、八王子市立第五中学校、関東学院六浦中学校・高等学校	9	426
高等学校	横浜市立横浜商業高等学校、清泉女学院中学高等学校、神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、世界食料デー登別大会実行委員会、栃木県立小山西南高等学校、横浜隼人中学校・高等学校、北鎌倉女子学園中学校・高等学校、神奈川県立横須賀明光高等学校	9	224
大学・専門学校	JICA日系社会次世代育成研修、立正大学文学部、北里大学看護学部、早稲田大学大学院日本語教育研究科、東海大学教養学部人間環境学科、文教大学国際学部、神戸親和女子大学文学部総合文化学科（梶山ゼミ）、公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）、明治学院大学 半澤ゼミ、共愛学園前橋国際大学大嶋研究室	10	141
その他	Viva110ブラジル日本移民110周年を祝う横浜市民の会、飯島町国際協会、春日部福音協会、第7回ふれあい日本の旅、（公財）海外日系人協会、八王子市公立小学校長会、上智大学ポルトガル学科同窓会、【夏休み宿題応援企画】日本の国際協力についてJICA横浜で学ぼう！、横浜市国際局、神奈川県教員5年次社会体験研修参加者、日伯経済文化協会（ANBEC） ブラジル人親子ワークショップ「親子で語る・学ぶ移民史と子どもの未来」、在東京ブラジル総領事館、ブラジ	21	363

	リアンコミュニティ通訳者サポートの会、日本語教育技術補完研修、日系社会技術補完研修、PARC自由学校、外務省中南米課「対外発信強化のための中南米日系人招へい」、東京都多摩市永山6丁目自治会「瓜生長寿会」、横浜市財政局（人権研修）、0925Japan Deluxe Tour東京シテイツアーズ、メモリーハイキングクラブ		
合計		52	1,357

(3) 第3 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立相沢小学校、さいたま市立徳力小学校、横浜市立白根小学校、横浜市立富岡小学校、横浜市立東品濃小学校、聖ヨゼフ学園小学校、横浜市立永田台小学校、葛飾区立東柴又小学校、横浜市立黒須田小学校	9	672
中学校	松阪市立西中学校、静岡理科大学静岡北中学校、神奈川学園中学校・高等学校、横浜市立仲尾台中学校、公文国際学園中等部、江東区立南砂中学校、北区立王子桜中学校	7	229
高等学校	静岡県立下田高等学校、クラーク記念国際高等学校、アレセア湘南高等学校、埼玉県立児玉高等学校、神奈川県立横浜桜陽高等学校、湘南学園中学校高等学校、星槎国際高等学校立川学習センター、長野県松本県ヶ丘高等学校、熊本県立済々黉高等学校、長崎県立長崎明誠高等学校、山口県立厚狭高等学校、神奈川県立川崎高等学校、山口県立山口高等学校	13	770
大学・専門学校	中央大学多文化教育学、法政大学社会学部中筋直哉ゼミナール、青山学院大学国際政治経済学部武田ゼミ、北里大学医療衛生学部、青山学院大学教育人間科学部（大森教授）、明治学院大学、政策研究大学院大学（プレッセーロ・アンドレア助教授）、恵泉女学園大学（ケンフジオカ様）、多摩大学グローバルスタディーズ学部、上智大学、共立女子大学、中央大学法学部「文化人類学IIクラス」一行	12	241
特別支援	神奈川県立横浜南養護学校	1	11

その他	JICA日系研修員（3回）、横浜市旭区役所、（公財）海外日系人協会、高木様、シャルレきららの会、横浜市中区人権啓発研修、全米日系人博物館ボランティアスタッフ他、いつもの会、横浜MICE振興課文化観光局、神奈川県警察学校（3回）、横浜市南区役所、篠倉様、NCWPD DISTRICT JACT TOUR（反町様/英語通訳案内士）、三洋装備株式会社（3回）、横浜市旭区役所、（公財）笹川平和財団、横浜市港南区役所、法務省人権擁護委員横浜協議会第5専門委員会、株式会社ツインプレス（村田代表取締役）、横浜市教育委員会事務局国際教育局（よこはま子ども国際平和プログラム実行委員会）、横浜市環境創造局、自然23、横浜市立大学連携講座、横浜市中区役所、生き生きセミナー五期会、日本国際交流センター（JICE）国際交流部（外務省KAKEHASHI Project）、JICA本部職員（資料館見学会）、ハワイ州観光局公式アロハプログラム会員	34	820
合計		76	2,743

(4) 第4 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	聖ヨゼフ学園小学校、カナディアン・インターナショナルスクール、横須賀市立鴨居小学校	3	126
中学校	日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）・横浜市立仲尾台中学校、八王子市立元八王子中学校、八王子市立檜原中学校、日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）、八王子市立打越中学校、世田谷区立船橋希望中学校、藤沢市立湘南台中学校、横浜市立仲尾台中学校	8	445
高等学校	日系社会次世代育成研修（高校生招へいプログラム）、熊本県立球磨中央高等学校、法政大学第二中・高等学校、ラ・ウニオン学校、法政大学第二中・高等学校、神奈川県立横浜国際高等学校	6	179
大学・専門学校	早稲田大学大学院日本語教育研究科、共愛学園前橋国際大学大嶋ゼミ、名桜大学国際学群住江ゼミ、JICA日系社会リーダー育成事業中南米日系留学生、日本国際交流センター（JICE）国際交流部（外務省KAKEHASHI Project）（2回）日本財団・日系スカラーシップ事業 中南米日系留学生（新規来日者）	7	110

その他	JICA日系研修員（2回）、横浜市役所経済局、東京都社会教育サポート、日系ビジネスリーダー招聘事業、福島県庁国際課、外務省中南米局南米課、海老名市中新田連合自治会、JICA四国センター、伊勢原市役所市民協同課（国際交流事業）、三島市シニアクラブ女性部、神奈川県立図書館、神奈川県警察学校（2回）、公益社団法人日本産業退職者協会・神奈川会、朝日ベースボール協会、NPO法人 神奈川区いまむかしガイドの会、日本太鼓財団、篠倉誠一郎様、2019年度1次隊JICA海外協力隊日本語教育集合研修（横浜）受講者	20	656
合計		44	1,516

【プログラム例 大学生向け（2時間）】

- ①ボランティアガイドによる解説付きでの資料館見学
- ②JICA日系社会ボランティアOBによる活動および現地紹介



【プログラム例 高校生向け（1.5時間）】

- ①JICA概要説明
- ②ボランティアガイドによる解説付きでの資料館見学

【プログラム例 中学生向け（1時間）】

- ※いみんトランクで事前学習
- ①パスポートを活用した資料館見学
- ②ボランティアガイドによる解説



【プログラム例 小学生向け（1時間）】

- ※パスポートで事前学習
- ①パスポートを活用した資料館見学
- ②ボランティアガイドによる解説

### 3) ボランティア管理運営

#### (1) ボランティア活動の概要

当館では、以下の業務をボランティアが実施している。

##### 展示案内ボランティア活動

常設展示室、企画展示室内での展示案内を中心に活動している。2018 年度末時点で、登録者数は 22 名。なお、展示案内ボランティアの配置状況は以下のとおりとなっている。

- ・第 1 四半期：252 人配置（77 開館日、平均 3.3 人配置）
- ・第 2 四半期：252 人配置（80 開館日、平均 3.2 人配置）
- ・第 3 四半期：261 人配置（76 開館日、平均 3.4 人配置）
- ・第 4 四半期：226 人配置（75 開館日、平均 3.0 人配置）

#### (2) ボランティア連絡会議の実施

ボランティア連絡会議を開催し、情報の共有および今後の活動についての意見交換を行った。2018年度は以下の通り実施した。

##### ボランティア連絡会議

- ・第 1 回 6 月 15 日（金）開催 参加者：14 名
- ・第 2 回 10 月 5 日（金）開催 参加者：13 名
- ・第 3 回 3 月 1 日（金）開催 参加者：14 名

## 5. 広報活動

### 1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

当館広報紙として「海外移住資料館だより」を、2018年度は2回発行。企画展示の内容をテーマに、展示内容及び収蔵資料等を紹介した。発行部数7,000部。

主な配布先は、都道府県国際交流課及び国際課、教育委員会や、各国大使館、図書館、博物館、神奈川県立高校、横浜及び川崎市内小中学校、国際教育研究協議会加盟校、外国人集住都市の国際交流協会など、約2,000件。その他、常設展示スペース等で随時配布している。

No.	発行	コンテンツ
50	2018年 10月	特集 ハワイ日本人移住150周年 最初にハワイへ移住した「 <sup>がんねんもの</sup> 元年者」たちの軌跡
51	2019年 3月	特集 マチュピチュ村をつつた男 野内与吉



No.50



No.51

## 2) 一般広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館の入館者数増を目指し、地域で行われるイベント等への参加、広報媒体への掲載など、以下のとおり実施した。

### (1) 外部媒体への掲載

朝日新聞／神奈川新聞／東京新聞／福島民報／毎日新聞／ヨコハマ経済新聞／鎌倉・横浜散歩／Mirea／Mundi／Noticias Nippon／横浜市暮らしのガイド／横浜ビズターズガイド／横浜観光コンベンション・ビューロー／タウンニュース／MEGA BRASIL／雑誌「横濱」／移動教室年鑑／はまっぷワイド／横浜ベイシティ交通マップ／横浜市観光情報公式サイト等

## 3) 開催広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館常設展示及び企画展示、公開講座、その他イベントに関する広報活動を積極的に行うため、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、適宜開催広報を行った（朝日新聞／神奈川新聞／産経新聞／東京新聞／毎日新聞／読売新聞／ヨコハマ経済新聞／共同通信社／時事通信社／ニッケイ新聞／サンパウロ新聞／NHK／JCOM／TVK／日本テレビ／テレビ朝日／TBS／神奈川県政記者クラブ／横浜市政記者室等）。また近隣博物館、商業施設、宿泊施設等へ、広報物の掲出・設置等依頼した。

## 4) 海外移住資料館「友の会」

海外移住資料館「友の会」は、「日本の海外移住の歴史」や「日系人」、「多文化理解・共生」などのテーマに興味・関心のある方々へ関連情報を発信するとともに、当資料館利用者数の増加を図ることを目的に設立された。

活動内容は当館で実施する事業やイベントの案内、海外移住の歴史や日系人、多文化理解といったキーワードに関連する情報の発信等となっている。

情報発信のツールとして、メールマガジンを利用し、2018年度は計12回配信した。メールマガジンは月1回の配信を基本とし、配信している。

会員登録には、メールマガジンの配信登録を利用し、2018年度末時点で、友の会会員はDM会員：285名、メール会員：1,501名となった。

## 6. 運営委員会及び学術委員会

### 1) 運営委員会

海外移住資料館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について専門的な見地から議論・検討することを目的とし、運営委員会を設置している。

### 2) 学術委員会

海外移住資料館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、2006年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、学識経験者、JICA 横浜所長（海外移住資料館長）により構成される。

#### 【2018年度 学術委員会開催】

- ・ 第1回学術委員会（6月22日）
- ・ 第2回学術委員会（7月27日）
- ・ 第3回学術委員会（12月26日）

#### 【2018年度 学術委員】

委員長	飯野正子	津田塾大学顧問・名誉教授
委員	島田法子	日本女子大学名誉教授
	中牧弘允	吹田市立博物館館長、国立民族学博物館名誉教授
	森茂岳雄	中央大学教授
	柳田利夫	慶應義塾大学名誉教授
	熊谷晃子	JICA 横浜所長（海外移住資料館長）

### 3) 学術研究プロジェクト

学術委員会において企画・検討された以下の4プロジェクトが、2018年度より3年間実施されることとなる。学術研究プロジェクトの研究概要は以下のとおり。

#### (1) 第二次世界大戦後に日本に「送還」された日系カナダ人の日加文化交流・日加友好関係増進への貢献

【概要】1942年、カナダ政府は、カナダ西海岸に居住していた21,000人の日系カナダ人を敵性外国人として内陸部に強制移動した。それらの日系人は、戦後、カナダに留まる者は「ロッキー山脈の東」へ移動、それを望まない者は日本に「送還」、というカナダ政府の通達による選択を迫られた。ロッキー山脈の東への移動を拒否した日系人は、カナダ生まれであっても日本に送られることになり、これは「国外追放」であると言われ、大きな混乱を生んだ。結果的には約4,000人の日系人が、戦争で疲弊した日本に到着したと記録されている。これまでの調査・研究により、これら4,000人の日系人が戦後の日本でどのように受け入れられたか、その後、定着したか、カナダへ戻ったか、についてはかなり把握されている。これらの日系人が日本との絆をどのように意識し、日本とカナダの関係にどのように関わろうとしたのかについて調査したい。

【プロジェクトリーダー】飯野正子（津田塾大学顧問・名誉教授）

## (2) 転換期における移住と日系社会の変容（1920～1950 年代）

【概要】ベルサイユ体制からワシントン体制そして総力戦体制から冷戦体制の構築に至る時代の転換期における移住と、南北アメリカ大陸諸国における日系社会の変容とを、二国間関係や戦争といった枠組みを越えた多国間関係の史的展開の中に再配置し、参加メンバーがこれまで蓄積してきた各地域の個別事例研究を基礎に議論を重ねることを通じて、移住とエスニック・コミュニティとしての日系社会の変容について、新たな研究地平の再構築を試みる。

【プロジェクトリーダー】柳田利夫（慶應義塾大学名誉教授）

## (3) 海外交流・渡航・移住の視点からみるグローバルヒストリー

【概要】本プロジェクトは、前プロジェクト「海外移住 150 年を振り返る：移動する人の視点からみる国際関係」の問題意識や視座を継承しつつ、対象時期を幕末・明治初期に広げ、海外交流・渡航・移住をグローバルヒストリーに位置づけることを目的としている。従来の研究では、日米和親条約（嘉永 7 年 3 月 3 日・1854 年 3 月 31 日）以前の海外交流や渡航を偶発的・単発的にとらえ、ハワイに「官約移民」が渡航した 1885 年を「日本人移民元年」と位置づけ、そして「移民」を狭義にとらえるナショナルヒストリーの枠内で考察する傾向があった。そこで、本プロジェクトは、グローバルな人やモノの交流、移動との連鎖の観点から、多様な移住の過程で、日本人は「外国人」として、また「人種」として、どのような位置づけがなされていったのか、日本人や日本へのまなざしの変容の背景には何があったのか等について検証する。従来の研究では見落とされてきた初期の海外交流・渡航・移住の歴史について、国家間の「国際関係」の編成過程を背景とした、幕末・明治の初期移住の歴史像を解明し、研究会、公開セミナーや出版等の形で、本プロジェクトの研究成果を広く社会にアウトリーチすることとしたい。

【プロジェクトリーダー】小澤智子（武蔵野美術大学准教授）

## (4) 在日ラテン系二世の社会参加に関する研究

【概要】本プロジェクトは、日本デカセギ 25 年の節目にあたる 2015 年から 2017 年までの半年間にわたって実施した学術研究プロジェクト「在日ラテン系二世の多角的分析」を通して得た知見と体験を新たな研究に生かしつつ、持続的に発展させるために提案するものである。前プロジェクトでは、「日本、南米、もしくは両地をまたにかけて、あるいは、越境という概念そのものさえも超えてゆきつつ成長している出稼ぎ二世の世代」を主たる対象として、日本各地のデカセギ南米人集住地域での調査や、JICA 横浜海外移住資料館を主会場としたイベント（ワークショップやパネルディスカッション）の場における参与観察を実施し、在日ラテン系二世たちの抱える問題や意識をあぶり出してきた。越境する彼ら在日二世のアイデンティティの問題は先行研究でもたびたび指摘されてきたが、その揺らぎは、空間的のみならず時間的なそれも含んでいると考えられ、前プロジェクト内で実施してきた「先祖捜しワークショップ」のようなイベントは、研究の場であると同時に、彼らと日本とを繋ぐ役割をわずかでも果たすことが期待できるだろう。

【プロジェクトリーダー】赤木妙子（目白大学教授）

#### 4) 研究紀要の発行

当資料館で行われた学術研究の成果として、『研究紀要 第13号』を発行した（2019年3月発行）。論文題目等は以下のとおり。

##### 【論文】

大正八年一月の暴動被害と損害賠償問題  
— 第一次世界大戦期の労働運動とリマの日本人移民 —  
慶應義塾大学・名誉教授 柳田 利夫

戦前の女性の越境と洋裁技術の移転  
— 日米で洋裁を教えた小川信子の事例から —  
日本大学・准教授 北脇 実千代

##### 【研究ノート】

第二次世界大戦直後に日本に「送還」された日系カナダ人のその後  
— カナダ帰国・日本定住をめぐる問題 —  
外務省外交史料館・元副館長 原口 邦紘

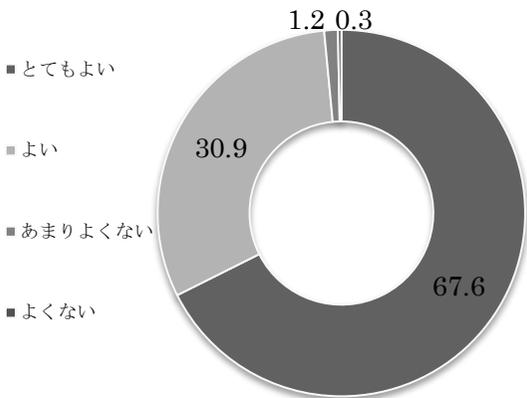
##### 【調査報告】

リオデジャネイロのイリアダスフローレス宿泊所と日本人移民  
— 「移民船」関連の入港書類を中心に —  
フェリス女学院大学・教授 比嘉 マルセーロ

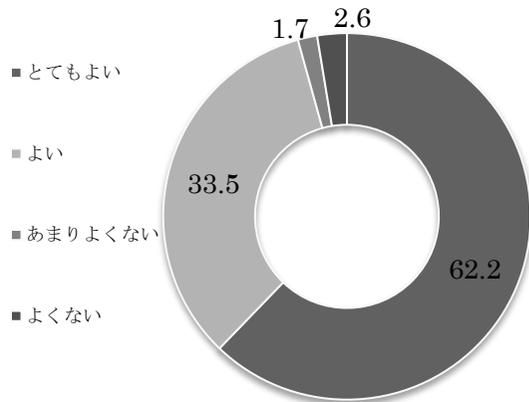
## 7. アンケート調査

当館の常設展示入館者を対象に利用者アンケートを実施。設問は「展示内容について」「展示ガイドによる展示解説について」「受付での対応について」「海外移住資料館だよりの記事内容について」等を設定した。回答総数は 350 件。4 段階で評価いただいたが、すべての設問において、無回答を除いた有効回答の 9 割以上が「とても良い」「良い」を選択しており、大変良好な回答を得た。

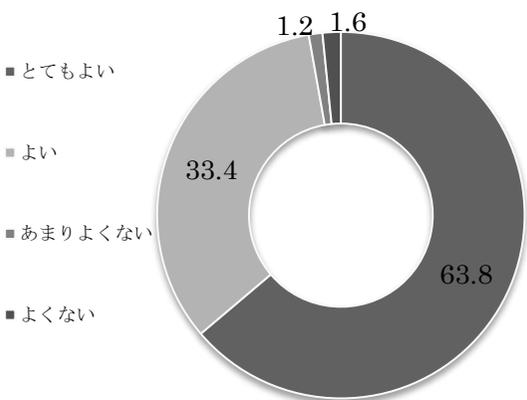
### 展示の内容



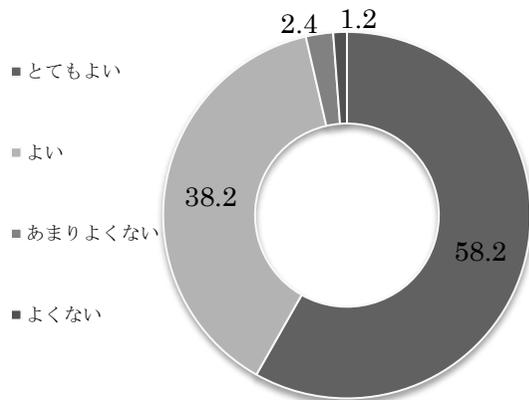
### 展示ガイドによる展示解説



### 受付の対応



### 海外移住資料館だより



## 8. 各種実績等

### 1) 貴賓来訪

#### (1) 秋篠宮眞子内親王殿下御視察

7月にブラジルご訪問を予定されておられた秋篠宮眞子内親王殿下が5月21日にご来館。当館の朝熊由美子館長と当館学術委員中牧弘允氏（吹田市立博物館・館長）の案内のもと、常設展示をご視察された。

#### (2) ノーマン・ミネタ氏ご来館

全米日系人博物館理事長のノーマン・ミネタ氏がアン・パロウズ館長兼CEOらと共に9月19日にご来館され、常設展示をご見学になられた。

#### (3) 辻外務大臣政務官ご来館

2019年4月にペルー訪問を予定されておられた辻外務大臣政務官が3月25日にご来館され、常設展示とペルー日本人移民120周年記念企画展示をご視察された。

### 2) 他館への資料貸出

当館所蔵資料の貸出実績は以下のとおり。

日付	貸出先	貸出内容	利用目的
4/1	昭和館	画像 68 点	常設展示利用
4/1	テレビ和歌山	画像 2 点、映像 4 点	
4/12	花巻市	画像 5 点	パネル製作
4/16	海外日系新聞放送協会	画像 1 点	
4/25	ジャパングジャーナル	画像 2 点	
5/21	JICA 広報室	画像 6 点	
5/24	立教学院展示館	映像 1 点	
5/28	JICA 広報室	画像 4 点	
5/29	徳島ブラジル友好協会	画像 10 点	パネル製作
6/1	毎日新聞社	画像 1 点	
6/5	アサツーディ・ケイ	画像 2 点	
6/14	JICA 長野県デスク	パネル 10 点	
6/15	高知県	パネル 19 点	
6/18	テレビ和歌山	画像 1 点、映像 4 点	
6/23	毎日映画社	画像 7 点	
6/26	テレビ和歌山	画像 1 点	
6/27	アサツーディ・ケイ	画像 5 点	
6/1	ボリビア多民族国駐日大使館	図書 1 点	
7/1	浜松国際交流協会	画像 10 点	
7/3	ハワイ州観光局	パネル 26 点	
7/5	生活資料館・ハワイ移民資料館 仁保島村	図書 1 点	
7/18	JICA 広報室報道課	画像 4 点	
7/18	ギルド	画像 1 点	

7/19	毎日映画社	画像 3 点	
7/20	日テレアックスオン	画像 7 点	
8/1	在ボリビア日本大使館	映像 5 点	
8/2	共同テレビジョン	画像 9 点	
8/3	オールアバウト	画像 7 点	
8/4	テレビ朝日	画像 1 点、映像 1 点	
8/9	JICA 中国	パネル 10 点	
8/13	静岡第一テレビ	画像 5 点	
8/25	毎日映画社	画像 20 点	
8/28	テレビ朝日	図書 1 点	
8/29	JICA 長野デスク	パネル 10 点	
9/3	岩波書店	画像 1 点	
9/11	早稲田大学	画像 68 点	
9/14	テレビ東京	画像 1 点	
9/24	JICA 中国	パネル 10 点	
9/27	宇検村教育委員会	画像 1 点、映像 2 点	
10/1	広島日伯協会	パネル 10 点	
10/6	横浜市国際交流協会	画像 1 点	
10/15	Plenus 米食文化研究所	画像 3 点	
10/29	JICA 関西	パネル 6 点	
11/1	JICA 中国	パネル 12 点	
11/1	YOU テレビ	映像 1 点	
11/9	テレビ東京制作	画像 9 点、映像 1 点	
11/13	ギルド	画像 3 点	
11/15	オールアウト	画像 4 点	
12/10	オールアウト	画像 2 点	
12/20	山川出版社	画像 2 点	
12/21	在ボリビア日本国大使館	映像 1 点	
12/26	JICA 東北	パネル 15 点	
1/17	テレビ和歌山	映像 1 点	
1/22	広島市市民局文化スポーツ部文化 振興課	画像 5 点	
2/18	JICA 中南米部 計画・移住課	画像 1 点	

3)各種実績

2018年度業務実績一覧

2018.4~2019.3

常設展示スペース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入館者数	3168	4697	3448	2168	4051	3100	7049	3996	3509	2733	2773	3604	44,296
(前年度比)	80%	72%	76%	60%	70%	90%	138%	139%	105%	110%	81%	116%	92%
一般	2501	3305	2427	1847	3807	2461	6447	3286	2622	1964	2537	3371	36,575
学校関係	667	1392	1021	321	244	639	602	710	887	769	236	233	7,721
15歳未満	309	1216	745	247	738	770	1917	782	659	696	413	433	8,925
15歳以上	2859	3481	2703	1921	3313	2330	5132	3214	2850	2037	2360	3171	35,371
個人	2301	2865	1997	1738	3589	2251	6180	2835	2244	1778	2208	3023	33,009
団体	867	1832	1451	430	462	849	869	1161	1265	955	565	581	11,287
※開館からの累計:													568,889

教育プログラム実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	6	31	27	19	18	15	19	30	27	18	14	12	236
実施対象人数	635	1357	1104	341	322	694	756	912	1075	670	364	482	8,712

照会対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	36	33	30	46	51	33	46	35	38	37	29	28	442
JICA	2	1	2	0	1	2	0	1	2	1	2	3	17
教育機関	3	3	3	2	0	2	2	1	1	1	0	2	20
国内団体	2	2	0	2	4	3	2	0	0	0	1	0	16
個人	25	26	18	35	33	24	32	27	29	29	21	22	321
自治体	0	0	4	1	0	0	0	1	1	1	2	0	10
制作会社・マスコミ	4	1	3	5	13	2	8	4	5	5	2	0	52
国外団体	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	1	1	6

図書資料室(海外移住)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入室者数	264	297	264	303	256	179	284	224	233	288	199	220	3,011
(前年同比)	98%	115%	82%	135%	91%	69%	97%	98%	77%	109%	84%	71%	93%
一般	72	85	74	155	130	66	81	90	80	63	67	64	1,027
マスコミ等	4	16	11	9	12	6	14	9	13	10	7	11	122
JICA関係(業務)	121	114	131	117	114	90	108	101	115	110	108	143	1,372
JICA関係(研修)	67	82	48	22	0	17	81	24	25	105	17	2	490

資料受入件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
資料受入件数	36	45	40	32	51	18	130	50	36	91	57	60	646
(うち取得)	7	23	11	14	20	11	31	17	25	15	34	25	233
(うち購入)	2	7	24	0	1	0	1	8	0	0	0	1	44
(うち寄贈)	26	15	5	17	30	7	98	25	11	27	22	33	316
(うち移管)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(うち既存資料)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	49	1	0	52
(うち寄託)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
所蔵登録総件数	42,852	42,897	42,937	42,969	43,020	43,038	43,168	43,218	43,254	43,345	43,402	43,462	

情報検索アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	879	1,542	3,037	2,005	236	1,713	1,677	1,624	2,085	1,478	1,411	1,537	19,224
(前年同比)	98%	168%	323%	204%	24%	163%	139%	179%	238%	185%	183%	183%	198%
検索件数	1,239	1,030	1,002	749	972	870	1,013	780	761	912	680	799	10,807
(前年同比)	141%	114%	156%	52%	78%	74%	76%	80%	50%	112%	95%	86%	86%

**JICA 横浜 海外移住資料館 館報**  
2018 年度

---

**発 行：独立行政法人国際協力機構横浜センター  
海外移住資料館**

**発行年月：2019 年 7 月**

**問い合わせ先**

**JICA 横浜 海外移住資料館**

**〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1**

**Tel 045-663-3257 / Fax 045-222-7162**

**Web : <https://www.jica.go.jp/jomm/>**

**E-mail : [info@jomm.jp](mailto:info@jomm.jp)**

